

「卒業おめでとうございます」

建学の精神を胸に！

向陽学園「創立101周年」の年に卒業(園)される皆様、卒業おめでとうございます。皆さんは、昨年の創立100周年では多くの「記念行事」に取り組み、成功に導かれました。そして、向陽学園に「新たな歴史」を築いてくれました。そのことに「自信と誇り」を持って進んで欲しいと思います。母校となる向陽学園も、次の100年に向かって挑戦していきます。



高等学校

「卒業おめでとう」

教頭 北村富啓

ご卒業おめでとうございます。

「ピンチはチャンス」という言葉があります。ピンチは、成長のチャンスであり、大きな飛躍のチャンスでもあります。人は、ピンチを乗り越えることで大きくなると思います。失敗やピンチは誰にでもあります。逆境も誰にでも訪れます。大切なのは、自分を信じて誠実に前向きに精いっぱい生きることです。

さて、卒業生の皆さん、この三年間の生活はどうだったのでしょうか。この三年間を振り返ると様々な経験をしてきたと思います。言えることは、大きさはどうであれ、確実に成長しているということです。まもなく、卒業を迎えます。卒業後も素晴らしい一年になるように心の準備をして、次のステップに向けて進んでください。これからも自然体の自分を大切にしてください。失敗を恐れず、何事にもチャレンジし、時には助言を仰ぎながら、それぞれの場所で新しい「何か」を生み出す人になってくれることを祈念します。

看護専攻科

「卒業おめでとう」

統括科長 柿川 美恵

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。向陽高校で過ごした日々を胸に、それぞれ新たな一歩を踏み出されることと思います。

人生を少し長く歩んできた者として皆さんに贈りたい言葉は、「自分を大切にし、自分らしく輝いてほしい」、そして「これから巡り逢う人とのご縁を大切にしてください」ということです。どんな時でも一生懸命頑張っている自分を誇りに思い、自分色を輝かせてください。また周囲の方々への感謝を忘れず、支えられている日々を大切にしてください。

未来は常に希望に満ちているとは限りません。迷い立ち止まる時は、支え合った仲間の笑顔を思い出し、前へ進む力にしてください。

向陽高校の歴史に刻まれた皆さん一人ひとりの歩みを、私たちは誇りをもって大切にしていきます。

出逢ってくれてありがとうございました。心から感謝し、今後も皆さんの未来が輝くことを心より祈っています。

令和8年「保育科」「福祉科」廃止



保育科は、昭和44年以来57年間において2,402名、**福祉科**は、平成22年以来16年間において410名の卒業生を輩出しました。



46回生「大宰府天満宮」



「卒園おめでとう」

園長 烏山 有希子

春のやわらかな光に包まれながら、向陽幼稚園では大切な節目の日を迎えようとしています。卒園を迎える子どもたちは、園での多くの経験を通して、心も身体も大きく成長してきました。その一人ひとりの歩みを、保護者の皆様とともに分かち合い、見守ってきた日々は、私たちにとってかけがえのない宝物です。

そして今年度は、向陽高校保育科が最後の卒業生を送り出す年となります。行事や実習を通して関わる中で、子どもたちの成長とともに、保育科の皆さんが学び成長していく姿は、私たちの幼児教育に対する想いを未来につなぐ、意義深い時間でした。ともに時間を重ねてきた皆さんは、今も私たちにとって大切な仲間です。これから進む道においても、向陽幼稚園での経験が心の支えとなることを願っています。最後に、全ての卒業生の一人ひとりの未来が、希望に満ちたものとなりますよう、心から応援しています。



保育科生と「ふれあい学習」



「お遊戯会」12月



「卒業おめでとう」

学院長 加治 俊文

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学院で過ごした日々は、専門的な知識や技術を身につける時間であると同時に、多くの人と関わりながら、自分自身を見つめ直す貴重な時間でもあったことでしょう。努力がすぐに結果に結びつかず、悩みや戸惑いを感じた場面もあったかもしれませんが、そうした一つひとつの経験こそが、皆さんの心と力を確かに育ててきました。

これから皆さんが歩む社会は、変化が速く、先の見えない状況に直面することも少なくありません。その中で大切なのは、失敗を恐れず、自ら考え、行動する姿勢です。小さな挑戦の積み重ねが、やがて大きな自信と成長へとつながっていきます。どうか自分の可能性を信じ、前向きに

一步一步進んでください。卒業生の皆さん一人ひとりの未来が、希望と充実で満ちたものとなることを心より祈念しております。



その時 向陽は!!

「今」が次の100年の歴史をつくる



向陽高校の100年の歴史を振り返ると、社会は何度も大きく変わり、そのたびに教育も変わってきました。どの時代にも、今と同じように変化に対する不安があったことがわかります。私たちはいつも変化の中で生きています。その変化の流れが「時間」だと言われます。変化する今が積み重なって過去になり、歴史になります。つまり歴史とは今の積み重ねだと言えます。では、私たちはその「今」をきちんと捉えているでしょうか。

散歩の道すがら、「ここには何があったかな」とわからなくなる経験があります。場所が持つ意味は、それを見る自分に大きな影響を与えますが、意味を考えなければ記憶には残りません。哲学者のカントは、「見たものを理解とつなげるものが知識である」と述べました。歴史を振り返り、その意味を知ることは、今ここにいる自分が何者かを知り、未来を考えるために大切なことなのです。

参考文献

向陽高等学校創立100周年記念誌(2025)、学校法人向陽学園、風に向かって(第87号-第96号)(2025-2026)、学校法人向陽学園 マルティン・ハイデガー、細谷貞雄訳「存在と時間」(1994)、筑摩書房、イマヌエル・カント、篠田英雄訳「判断力批判」(1964)、岩波文庫 ※シリーズ「その時向陽は!!」文責(橋本宏一)



向陽高等学校 たちばな同窓会

ご卒業おめでとうございます

皆様の「たちばな同窓会」ご入会を心から歓迎いたしますと共に、健康とご活躍を祈念いたします。

同窓会会長 高山悦子



福祉科最後の3年生を激励

介護福祉士国家試験を前に、平成29年度福祉科卒業の本多正哲同窓会副会長がエールを送りました。



たちばな同窓会事務局 局長:上田寿子、事務局員:元奈美 TEL:0957(51)4538